



米納津隕石里帰り展「おかえり！米納津隕石」を開催

天保8年(1837)に市内富永に落下し、日本で第3位の重量をもつ米納津隕石が13年ぶりに燕市へ帰ってきました。

平成25年9月12日～9月23日、燕市役所つばめホールを会場に里帰り展を開催し、これに先立って9月10日には、落下地点が学区内にある燕市立吉田北小学校で里帰り歓迎会を開催しました。

里帰り歓迎会は、在校児童による総合学習の成果として歌や踊り、クイズなど多彩な発表のほか、関矢敦さん(元理科教諭)から隕石と宇宙に関するお話しをしていただきました。

展示会では、現在は東京国立科学博物館で常設展示されている実物資料とともに、隕石落下当時の様子を記録した庄屋文書、明治時代に帝国博物館へ出品するに至った記録など、市内に残る歴史資料や隕石に関する科学資料を展示しました。また、会期中には、展示説明会や天体観察会、本宮宏美さんによるフルーツコンサートなどを開催し、市内外から延べ5,000人を超える多くの方にご来場いただきました。

皆さんの米納津隕石への関心の高さを物語るとともに、燕市の魅力を再発見する催しとなりました。



歓迎会-在校児童による発表



本宮宏美さんのフルーツコンサート



つば丸郎も米納津隕石を見学



里帰り歓迎会

参加者全員で米納津隕石と記念撮影！



たくさんの来場者でにぎわう展示会場

中央の展示ケース内にあるのが米納津隕石

平成 25 年度 燕市の主な文化財保護事業

燕市教育委員会では、市内の文化財を守り後世に伝えていくため、さまざまな取り組みをしています。

●平成 25 年度下越地区歴史資料所在確認調査（8 月）

新潟県立文書館が中心となって行っているもので、県内各地に所蔵されている古文書等の歴史資料について、その所在確認と記録を行う事業です。今年、初めて燕市を対象に調査が行われました。

平成 25 年 8 月 10 日、11 日の 2 日間で、燕地区に所在する新潟県史や燕市史の編さんなどに伴って把握された歴史資料を対象に 4 家を訪問し、資料確認と聞き取り調査を行いました。いずれのお宅でも大切に保管されていましたが、以前の調査から 20 年以上が経過し、当主の代替わりなどによって資料の存在を知らない例もありました。大切な地域資料の散逸を防ぐため、このような調査を継続して行うことが必要です。



所有者から保管状況などについて聞き取り



確認された歴史資料

●カノ尾南（りきのおみなみ）遺跡発掘調査（6 月～8 月）

県営経営体育成基盤整備事業（潟 4 期地区）に伴い、渡部地内の排水路工事箇所では遺跡の現状保存が図れないことから、本発掘調査を実施しました。

調査の結果、平安時代を中心に奈良時代から中世の土器など、生活用具が多数出土しました。調査区は 2m と狭い範囲でしたが、木柱を伴う柱穴が複数見付き、建物の存在が確認できました。また、製鉄作業で輩出される鉄滓^{てっさい}と呼ばれる不純物や砥石なども見付き、調査区付近の丘陵部を使った金属加工作業が行われていたことが分かりました。

今後、資料の精査を行うことでより詳しく当時の生活の様子を探ることができます。



調査風景



遺構検出状況（白い○が柱穴の跡）



土器出土状況

● 県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査（10月～12月）

県営経営体育成基盤整備事業（潟4期地区、潟5期地区、長所地区、花見地区）の実施に伴い、事業地内の遺跡の有無や内容を確認するため、試掘・確認調査を実施しました。

調査の結果、真木山地内で新たに「道上北（みちうえきた）遺跡」が発見されました。鑄造作業に関係する出土品があり、カノ尾南遺跡とともに丘陵地を利用した金属加工の様子がうかがえます。



道上北遺跡出土品
（溶解炉のかけら）

● 「水道の塔」登録有形文化財プレートお披露目会（11月）

燕市総合文化センター駐車場の一角に立つ水道の塔が、平成25年6月21日、正式に国の登録有形文化財に登録されました（登録文化財名称「燕市旧浄水場配水塔」）。

11月3日には、登録文化財プレートのお披露目会を行い、水道の塔を調査していただいた平山育男さん（長岡造形大学教授）による講演会を開催しました。

講演会では、燕市の配水塔のデザインの基となった他県の事例などを紹介していただき、参加者の皆さんは興味深くお話を聞き入っていました。



平山育男さん講演

● 遺跡出土品展「平成25年度発掘調査速報」・記念講演会（2月）

平成26年2月14日～2月23日、これまでの遺跡調査成果を紹介するとともに地域の歴史について知っていただくため、遺跡出土品展を分水公民館で開催しました。

今回は分水地区にスポットを当てた展示を行い、会期中には展示説明会や記念講演会を開催しました。記念講演会は、上杉氏や越後の中世史研究で著名な花ヶ前盛明（はながさきもりあき）さん（新潟県文化財保護連盟理事）を講師に迎え、渡部城（燕市指定史跡）をテーマにお話しいただきました。

講演会は定員を大きく上回る参加があり、出土品展終了後には、講演内容に関する質問や地域の歴史に関する情報などが数多く寄せられました。中には、所有の山中で見つけたという土器片を持って再び展示会場を訪れた方もあり、市民の皆さんの地域史への関心の高さがうかがえました。



展示説明会



記念講演会



花ヶ前盛明さん

**** 今後も皆さんの「知りたい！」に応える事業を行ってまいります ****

燕市の文化財紹介

●燕市指定文化財（史跡）「渡部城址」^{わたべじょうし}

渡部橋の近くに「城山（扇山）」と呼ばれる小丘陵があります。これが戦国時代の山城「渡部城」です。

城の縄張りは、山頂部の本丸を中心に^{くるわ}曲輪群を配して丘陵全体に展開し、要所に土塁や堀切を構えて守りを固めています。比較的大型の山城で、水陸交通の要地にあることから、黒滝城（弥彦村）とともにこの地域の拠点城郭の一つであったと思われます。

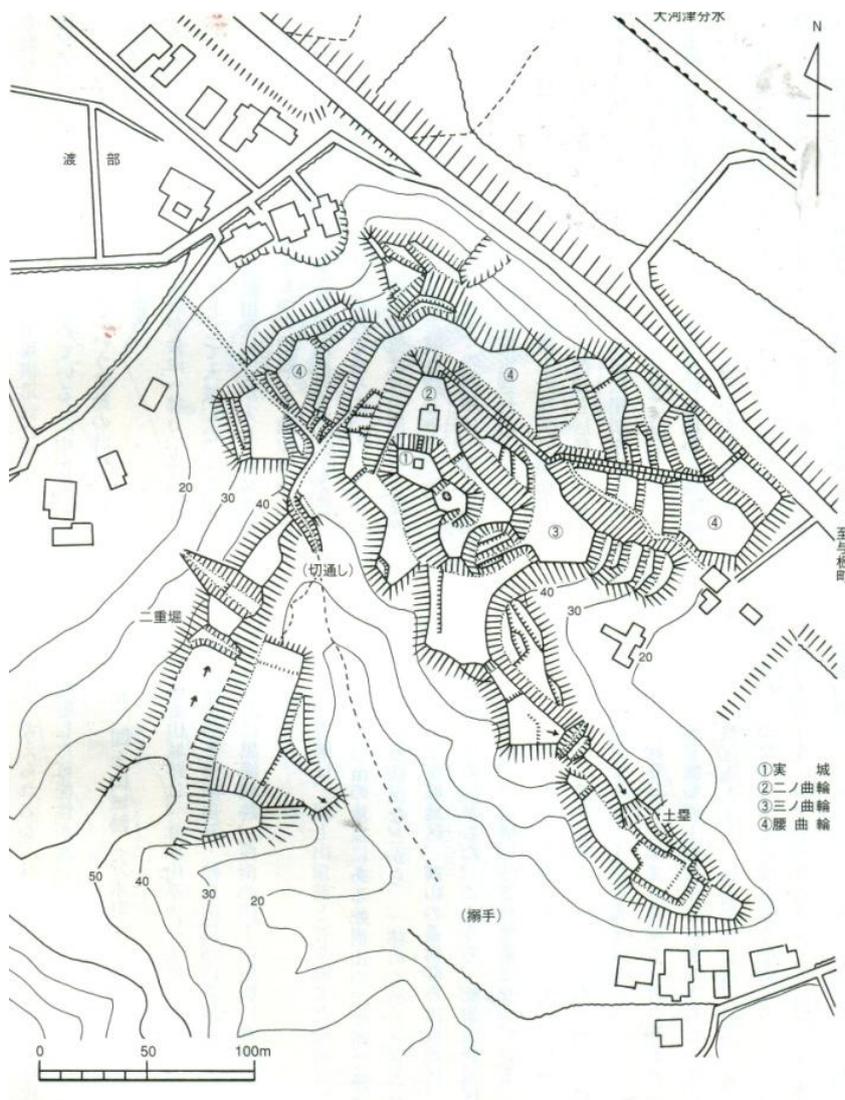
^{えいしやう}永正の乱（1510）や、急逝した上杉謙信の相続をめぐって養子の^{おたて}景勝と景虎が争った「御館の乱」（1579）など、いくたびかの戦乱に巻き込まれたと伝えられます。

^{けいちやう}慶長3年（1598）、上杉氏の会津移封後は、堀氏の家臣、^{しばた さ の もり か つ ま た}柴田佐渡守勝全が入城します。しかし、慶長8年（1630）頃、佐渡国の仕置きをめぐって勝全は三条城主、^{ほり なお ま さ}堀直政と争って改易され、城は廃城となりました。

明治期の大河津分水路開削工事によって、城の北側はいくらか削りとられました。が、主要な部分は往時の姿を残しています。



渡部城址（分水路対岸から望む）



渡部城縄張り図



今も残る堀切の跡